

環境 NEWS (第42回)



全日本サーフキャスティング連盟本部 環境部

地球温暖化の原因は、世界全体から排出される温室効果ガスのうち、約 80%を占めている二酸化炭素(CO₂)だそうです。

地上では、植物(緑)を増やす活動により二酸化炭素を減らそうとしています。植物の葉の光合成により二酸化炭素を酸素へ変換しているのはご存じの通りです。

海中でも同様の活動がなされているとのこと。植物の代わりに海藻が二酸化炭素を減らす役目を果たしているそうで、単にサカナの産卵場のためだけではないのですね。

海は広大でも、海藻が生えているのは限られた範囲です。藻場のある海に囲まれた我が国では、ある意味恵まれているのかも知れませんね。

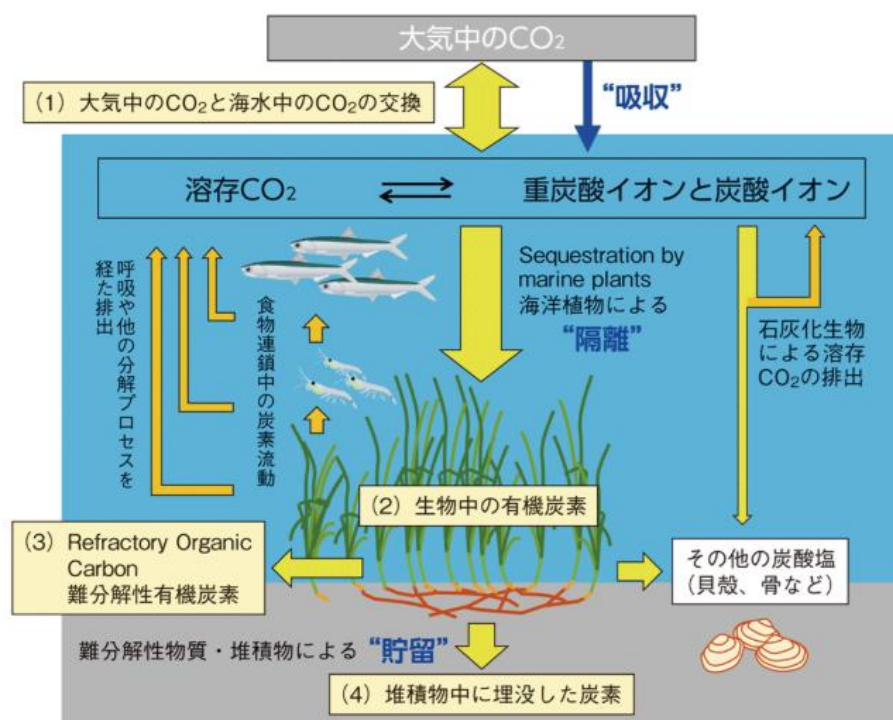
平成 29 (2017) 年 3 月に「農林水産省地球温暖化対策計画」が策定され、水産分野では、温室効果ガス排出削減・吸収源対策として、省エネルギー型漁船の導入等の漁船の省エネルギー対策、二酸化炭素の吸収・固定に資する藻場等の保全・創造対策の推進により、地球温暖化対策を講じていくことが盛り込まれました。

気候変動は、海洋環境を通じて水産資源や漁業・養殖業に影響をもたらします。そのため、気候変動に対しては、温室効果ガスの排出抑制等による「緩和」と、避けられない影響に対する「適応」の両面から対策を進めることが重要です。

令和元 (2019) 年 6 月に閣議決定された「パリ協定に基づく成長戦略としての長期戦略」において、ICT を活用した「スマート農林水産業」の実現や漁船の電化・水素燃料電池化の推進等により温室効果ガス排出削減を図ること、海洋生態系に貯留される炭素（ブルーカーボン）について二酸化炭素の吸収源としての可能性を追求すること等が明記されました。

(注) ICT とは Information and Communication Technology (情報通信技術) の略称で情報収集・処理・伝達を円滑にするための技術の総称です。

(注) 沿岸・海洋生態系が光合成により CO₂ を取り込み、その後海底や深海に蓄積される炭素のことを、ブルーカーボンと呼びます。



水産庁